



# 西浮通信

令和4年6月30日  
NO. 382  
東京都北区立西浮間小学校  
校長 小島 みつる

## 支えてくださる方に感謝

副校長 富田 暁子

オリンピックの選手の方々、ノーベル賞受賞者の方々にインタビューすると、必ずお話しされるのは、「応援して下さった方」「支えて下さった方」そして「家族」への感謝の言葉です。本人も途方もない困難を乗り越え続け、ご苦労されたのは当然ですが、一人で成功することは難しいことを理解されているからこそ出る言葉なのでしょう。

子供たちだけでなく、私たちは生活の中で、ほとんどが社会全体を感動させたり話題を提供したりすることはありません。けれども、誰もが、どんなに小さいものでも心から喜んだり（喜び合ったり）、大切な思い出を作ったり（共有したり）するような経験をたくさんしているのは事実です。ですから、喜びや感動をした時こそ、「裏方さん」や「支えてくださる方」のことを考えるようにしなければならないと思うのです。

そのためには、子供たちには、①自分自身が「裏方さん」を経験すること ②裏方さんは直接本人に言えませんから、第三者が本人に伝え、広く紹介すること ③素直に「ありがとう」と言える表現力をもつこと 等が必要なのではないかと考えます。当然、子供たちに容易にできることではありません。私たち大人が、「仲間と共に喜びを感じられる子供」の育成を目指していくことが必要であると考えます。

学校行事では、この機会が多く設定されています。6月の行事だけでも、体力テスト、4年那須移動教室、にしゅうきフェスティバル等がありました。体力テストでは、友達や上級生の助けを借りて、記録を数えてもらい、体力を測定しました。好記録が出ると、共に喜ぶ姿が見られました。4年那須移動教室では、多くの役割を4年生全体で分担して担い、楽しく安全に友達同士で



4年那須移動教室レク

楽しい思い出を作ってくることができました。にしゅうきフェスティバルでは、「お店屋さん」と「お客さん」を全員が経験し、「お店屋さん」として「裏方さん」を経験しました。特に、西浮間小学校の子供たちは、「お店屋さん」の大変さや楽しさを知っているので、「お客さん」として、質問したり順番を待ったり、「お店屋さん」を活躍させるように上手に楽しむ姿が見られていたのが印象的でした。

また、振り返りを行うことで、自分の行動は行事に貢献するものだったかどうか（みんなで決めた目標に合っていたか）、友達と協力できていたかどうか（経験を共有できたか）を意図的に考える機会を作っています。もちろん、日々の授業や学校生活の中で、ご家庭の中で、大切にしていかなければ子供たちの中に定着しないことです。

もうすぐ子供たちの楽しみにしている夏休みです。地域社会の中で過ごし、いつもとは違う方々と過ごす時間もあるでしょう。子供たちに関わる人を知らせ、周囲の大人が「裏方さん」の存在を意識させること、お世話になった方々に「ありがとう」と言えるよう促すこと等々、是非、支えてくださる方に感謝できる子になるよう見守っていただければと思います。



にしゅうきフェスティバル